

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

神戸町教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習指導の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 国から提供される調査結果を活用して、神戸町の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

- ・ 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

② 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）
- ・ 学校に対する質問紙調査（指導方法に関する取組、人的・物的な教育条件の整備状況等）

(4) 調査日

- ・ 令和5年4月18日（火）

(5) 神戸町における調査を実施した児童生徒数（人） ※ 当日実施児童生徒数のみ

		神戸町	岐阜県（公立）	全国（公立）
小学校	国語	132	16, 176	964, 177
	算数	131	16, 178	964, 350
	質問紙	132		
中学校	国語	133	16, 061	892, 738
	数学	133	16, 041	893, 114
	英語	133	16, 051	893, 528
	質問紙	133		

2 調査結果の概要

(1) 国語、算数・数学、英語の学力の状況について

① 小学校

- ・国語では、「思考力、判断力、表現力」の「読むこと」に関する問題で全国や県と同等の平均正答率である。一方、「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」や「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」に課題が見られる。
- ・算数では、「データの活用」では県より高い平均正答率である。一方、「数と計算」に課題が見られる。
- ・平均正答率の分布は、国語は、全国や県と同様の傾向にある。算数は分布に若干のばらつきがあり、学力差が見られる。
- ・問題形式（選択、短答、記述）による正答率は、短答式は、国語、算数ともに、全国や県より高い、あるいは同等の平均正答率である。一方、記述式に課題が見られる。

② 中学校

- ・国語では、「知識及び技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」に関する問題で全国や県より高い平均正答率である。一方、「思考力、判断力、表現力」の「書くこと」に課題が見られる。
- ・数学では、「数と式」において、全国や県より高い平均正答率である。一方で「図形」や「データの活用」に課題が見られる。
- ・英語では、「読むこと」に関する領域では全国と同等の平均正答率である。一方で、「聞くこと」に関する領域に課題が見られる。
- ・平均正答率の分布は、国語では全国や県と同様の傾向にある。数学や英語では分布に若干のばらつきがあり、学力差が見られる。
- ・問題形式による正答率は、国語では、短答式が全国、県より高い平均正答率である。数学では、選択式が全国、県より高い平均正答率である。一方、記述式に課題が見られる。

(2) 国語、算数・数学、英語への関心・意欲等について

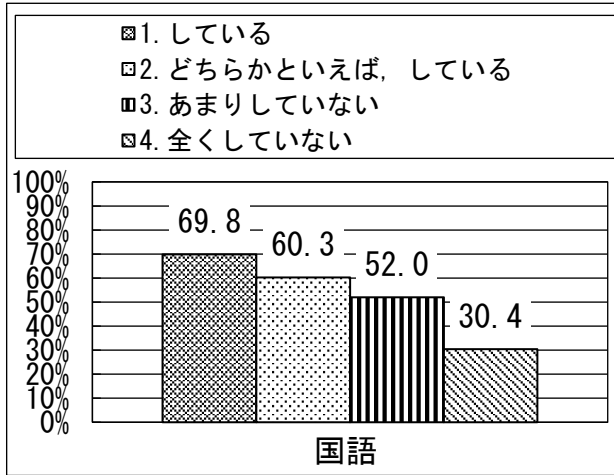
- ・小学校国語では、「好き」「大切な教科」「授業が分かる」と答える児童の割合が、県や全国と比較すると高い。中学校においても、「大切な教科」「授業が分かる」と答える生徒の割合は、全国や県より高い、あるいは同等である。
- ・小学校算数では、「好き」「大切な教科」「授業が分かる」と答える児童の割合が、全国や県と比較すると高い。一方、中学校においては「好き」「大切な教科」「授業が分かる」と答える生徒の割合が低下してきている。授業において魅力的な導入や生徒同士が自らの考えをもとに話し合う協働的な学習を行うなど、授業改善に取り組む必要がある。
- ・英語では、「好き」「大切な教科」「授業が分かる」と答える生徒の割合が、全国や県と比較するとやや低い。生徒が主体的に学び、学びを実感できる授業を工夫していく必要がある。

(3) 生活習慣について

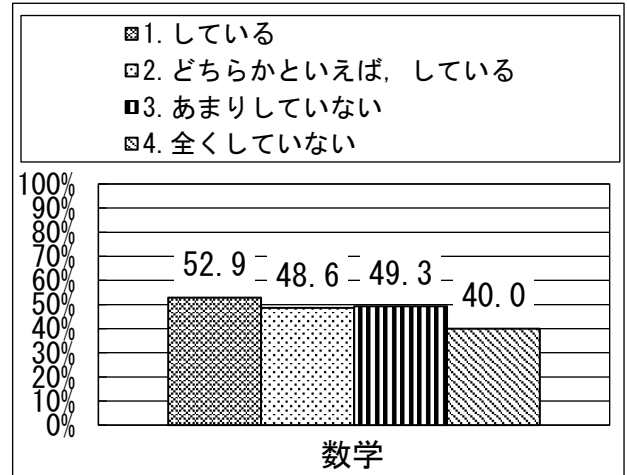
- ・小学校では「朝食を毎日食べている」と回答する児童の割合が、全国よりも高いが県

よりはやや低い。中学校では「朝食を毎日食べている」と回答する生徒の割合が全国よりも高く、県と同等である。

- ・小学校において毎日、同じくらいの時刻に起きる児童の割合が全国や県よりも高い。また中学校において毎日、同じくらいの時刻に起きたり、寝たりする生徒の割合が全国や県よりも高く、規則正しい生活ができている。
- ・次のグラフは、今回の小学校の調査における「毎日、同じ時刻に起きていますかと学力調査の正答率（図1）」、中学校の「毎日同じ時刻に起きていますかと学力調査の正答率（図2）」の関係である。規則正しく、望ましい生活習慣が学力向上には欠かせない。

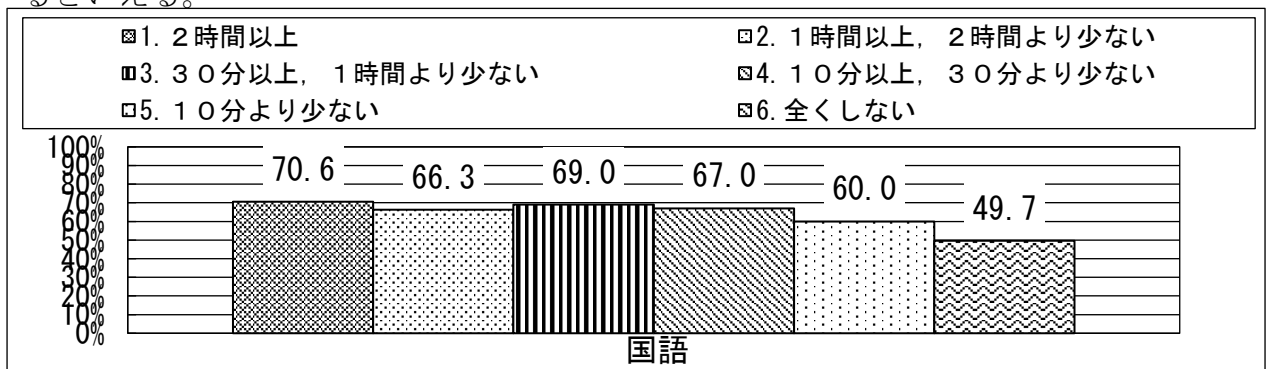


(図1) 小学校



(図2) 中学校

- ・次のグラフ（図3）は、小学校の「学校の授業以外に普段（月～金）1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）と学力調査の正答率」の関係である。読書の習慣は学力にも影響を与えると見える。



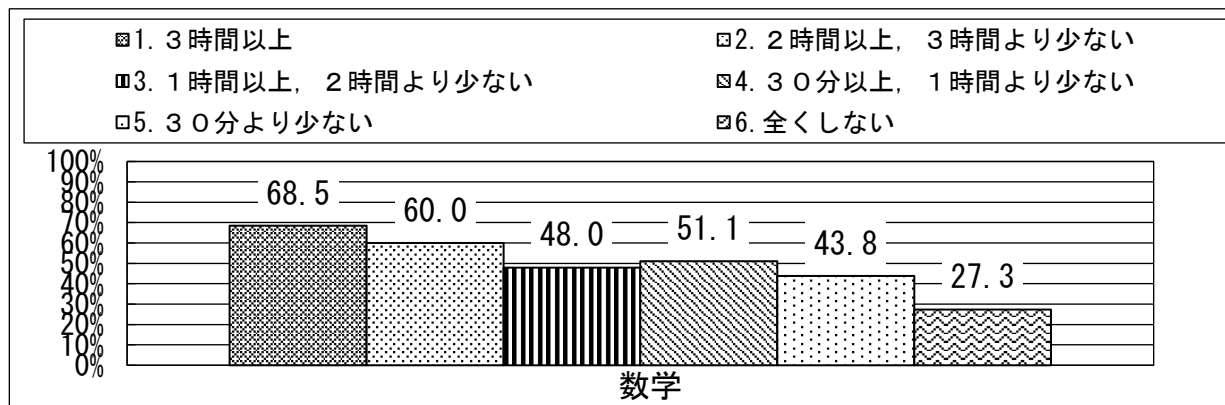
(図3) 小学校

(4) 地域や社会との関わりについて

- ・「住んでいる地域の行事に積極的に参加をする」児童生徒が、全国や県と比べて多い。地域ぐるみで児童生徒の健全育成が図れるよう、児童生徒が参加できる場が充実し、子どもの関心も高まっている。
- ・「地域や社会をよくするために何かしてみたいことがある」児童生徒が全国や県よりも多く、社会の出来事への関心も高い。

(5) 家庭学習の実施状況について

- ・小学校、中学校ともに、学校の授業時間以外に普段（月～金）に学習している時間は、全国や県よりもやや少ない。
- ・次のグラフ（図4）は、中学校の「学校の授業時間以外に普段（月～金）1日当たりどのくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。）と学力調査の正答率」の関係である。家庭学習の習慣を身に付けることが、学力向上には欠かせない。



(図4) 中学校

(6) 自尊感情や自己肯定感について

- ・小学校、中学校ともに、将来の夢や目標をもっている児童生徒は全国や県と比べて低い傾向にある。キャリア教育の一層の充実を目指す。
- ・小学校、中学校ともに、「自分にはよいところがある」と自分のよさを自覚している児童生徒の割合は、全国や県と同等である。また「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えている児童生徒の割合は、全国や県よりも多い。自己のよさを自覚し、自己肯定感が高められる環境を、学校・家庭・地域でつくりあげていく。

(7) 規範意識の醸成について

- ・「いじめはぜったいにいけない」という意識が小学生、中学生ともに全国や県よりも高い。
- ・「人が困っているときは、進んで助けている」という児童生徒の割合が全国や県よりも高い。

(8) 学校における授業改善で大切にしたい取組について

※ 具体的な方策については、小・中学校より保護者に対して説明がされます。

- ・ICT機器を有効に活用した授業のあり方
- ・授業の改善（主体的、対話的で深い学びの実践）
- ・学級活動における話し合い活動の充実
- ・児童生徒が学力を身に付ける授業過程や学習環境の工夫、充実
- ・学習状況や定着状況の見届けと指導しきる、きめ細かな実践